

第2 市の特色

1 地理的特色

(1) 位置

八戸市は、本州の北端である青森県の南東部に位置（北緯 40 度 33 分、東経 141 度 30 分）し、北部中央の青森市、南西部の弘前市と県内を 3 分する経済圏の 1 つの中核であるとともに、北奥羽地域の拠点として位置付けられています。

(2) 地形と地質

地形は概ね平坦であるが、南方は階上岳の裾野として台地・丘陵地が僅かに形成されています。

北部は、十和田湖から流れ出ている奥入瀬川が東流し、太平洋に注いで市界をなし、これと並流して奥羽山脈から発する馬淵川、北上山地から発する新井田川が市の中心を流れ、これら河川に沿って耕地が開け、平坦地に水田が、その周辺台地・丘陵地に畑と樹園地が展開されています。

河川流域の平坦地は沖積層土壌、台地、丘陵地は火山灰土壌で覆われています。

(3) 気象

年平均気温は約 10℃、年総降水量は 1,000mm 程度、年総日照時間は 1,900 時間程度であり、夏期は比較的冷涼ですが、やませ（偏東風）により、冷害を招くこともあります。

また、冬期は東北地方北部にありながら、積雪量が少なく、日照時間が多いことが特徴となっています。

2 社会的特色

市域人口約 22 万人の消費地となっています。

東京都までは約 650km の距離にあり、東北新幹線、東北縦貫自動車道、八戸港を有しているほか、三沢空港があり、交通利便性の高い地域となっています。

3 経済的特色

当市では、農林水産業のほか、日本有数の水揚げ量を背景とした水産加工業、紙・パルプ、非鉄金属、鉄鋼等の基礎素材型産業を中心に発展し、北東北随一の集積を誇る工業、青森県南及び岩手県北の広域商圏を有する商業、自然・歴史・文化・食等を生かした観光産業等多様な産業が集積しています。

産業別就業人口は、第3次産業が74.5%を占め、次いで第2次産業が22.5%、第1次産業が3.0%となっています。

産業別就業人口 (単位：人)

合計	第1次産業	第2次産業	第3次産業
111,190	3,385	24,999	82,806

◇令和2年国勢調査結果より

(1) 農林水産業

農業については、都市近郊型農業が展開されており、地域特性を生かした多彩な生産が行われています。

林業については、市の南部の丘陵地において、スギやアカマツ等が広く分布し、林業の持続的かつ健全な発展を図るため、適切な森林整備が行われています。

水産業については、昭和35年に八戸港が特定第3種漁港に指定されたことを契機に、魚市場の整備や加工施設、冷凍冷蔵施設が建設され、水産都市としての基盤整備が進められています。現在は、近年の国際的な漁業規制の強化や日本周辺海域における水産資源の減少により水揚げ高は減少傾向にあります。依然として水揚げ数量、水揚げ金額ともに全国上位の水準にあります。

(2) 工業

工業については、昭和39年の新産業都市の指定を契機に北東北随一の工業都市として発展し、近年では、ソフトウェア業、機械設計業、電子部品製造業、精密機械部品製造業等の企業集積も進んでいます。

(3) 商業

商業については、中心市街地を中心に大規模商圈を有しているものの、近年では、商業施設の郊外への分散が進み、1店舗あたり売り場面積が増加する大型化の傾向がみられます。

(4) 観光産業

観光産業については、国の名勝「種差海岸」等の自然、国の重要無形民俗文化財に指定されている「八戸三社大祭」、「八戸えんぶり」等の祭り、「是川遺跡」等の文化遺産、「八戸せんべい汁」等の郷土食といった観光資源に恵まれた地域となっています。